

# メセナ市民交響楽団 第9回定期演奏会

～ 奇跡の共演 ～

指揮 村石 達哉  
Conductor : Muraishi Tatsuya

リスト 交響詩「レ・プレリュード」

Liszt : Les Preludes

ベートーヴェン

ヴァイオリン、チェロ、ピアノの三重協奏曲

Beethoven : Triple Concerto in C Major

シューベルト 交響曲 第9番「ザ・グレート」

Schubert : Symphony No.9 "The Great" in C Major

中野 孝紀

Piano : Nakano Takanori



マリアンネ・ベッチャー

Violin : Marianne Boettcher



クリストファー・聡・ギブソン

Cello : Christopher So Gibson



2020年 3月 15日 (日)

開演 14:00 (開場 13:30)

メセナホール(須坂市文化会館)大ホール

一般 ¥1,000(当日 ¥1,200) 学生 ¥500(当日 ¥600)

- 主催 メセナ市民交響楽団 ■ 共催 一般財団法人 須坂市文化振興事業団
- 後援 須坂市教育委員会 信濃毎日新聞社 須坂新聞社 Goolight(須高ケーブルテレビ)
- チケット発売日 12月20日より
- プレイガイド メセナホール(026-245-1800) ヒオキ楽器本店・中野店(シンフォニア)  
平安堂須坂店 美鈴楽器 浅井管楽器工房

## マリアンネ・ベッチャー (ヴァイオリン) *Marianne Boettcher (Violin)*



カラヤン時代のベルリン・フィルのコンマスであるミシェル・シュヴァルベに学び、現役ヴァイオリニストとしても第一線で活躍している。また、理知的な演奏スタイルで知られる20世紀の名ヴァイオリニスト、ヘンリック・シェリングにも教えを受けている。古典派とロマン派を得意とする現役ヴァイオリニストとして、ベッチャー教授の実力は欧米で特に広く知れ渡っている。また、彼女の演奏会で現代音楽を定期的に取り上げることで有名で、多くの新曲が著名な作曲家によって彼女のために書かれ初演されている。CD録音やテレビ・ラジオ出演など、第一線の舞台上で活動し続けている。演奏家としてだけでなく、指導者としてもベッチャー教授の実績は輝かしく、世界トップランクの名門校、ドイツ・ベルリン芸術大学で教鞭をとるほか、ドイツやオーストリアの著名音大などで開かれるマスタークラスでも教えている。特に、門下生のコンクール受賞歴には若手音楽家の登竜門といわれている全ドイツ青少年音楽コンクール「ユーゲント・ムジツィアート」の1位は、1999年から2006年までの7年間、全て教授の生徒が占めている。また、2005年アメリカ・エイドリアン・ポエイン国際コンクールの1位、ドイツ・ルイーゼ・ヘンリエッテ国際コンクールの2004年と2005年の1位、2位も、教授の門下から出ている。

ドイツのバッハ音楽祭、ポーランドのヴェニヤフスキー音楽祭などの多くの音楽祭に招かれている。2003年にはドイツ連邦よりそれまでの功績に対して十字功労賞のメダルを授与された。初来日は2014年にメセナ市民交響楽団の招きに応じてハチャトリヤンのヴァイオリン協奏曲を演奏。東京でのリサイタルでは専属ピアニストである天才ピアニストの山口研生とともに情熱溢れる温かな音楽性の演奏に聴く者に衝撃をもって受け入れられた。2017年の来日に続き、今回4回目の来日となる。

## 中野 孝紀 (ピアノ) *Nakano Takanori (Piano)*

東京藝術大学附属音楽高等学校、東京藝術大学を経て同大学院修了。在学中に安宅賞を受賞する。その後渡欧し1994年ベルリン芸術大学を最優秀で卒業。その間ベルリンを中心に各地でソロ、室内楽演奏会に数多く出演した。1994年10月東京・津田ホールにてデビューリサイタル、NHK・FMの「土曜リサイタル」に出演。



1996年カザルスホールでのリサイタルは「音楽の友」誌におけるコンサート年間ベスト10に選ばれた。以降、定期的に開催されているソロ・リサイタルは、毎回期待を裏切らない充実した演奏で高い支持を得ている。またソリストとしてオーケストラとの共演では、ベートーヴェン、ショパン、グリーグ、ラヴェル、チャイコフスキー、ラフマニノフ、プロコフィエフ、ショスタコーヴィチ、ガーシュインなどを演奏し、協奏曲のレパートリーも広い。他にヴァイオリン、チェロとのデュオやトリオなどの室内楽、歌曲伴奏者としても積極的に活動しており、数多くの共演者から絶大な信頼を寄せられている。2015年4月に行われた演奏活動20周年記念リサイタルでは、音楽に対する真摯な姿勢が高く評価され、音楽誌上において名演と賞賛された。

ピアノを笠間春子、辛島輝治、故・園田高弘、エーリッヒ・アンドレアス、ジョルジュ・シェベックの各氏、室内楽をマリアンネ・ベッチャー、イラン・グローニッチ、故・マンフレッド・シェルツァーの各氏に師事。現在、東京学芸大学教授。

## クリストファー・聡・ギブソン (チェロ) *Christopher So Gibson (Cello)*



アメリカ・ミシガン州生まれ。4歳よりチェロを始める。高校在学中に Tanglewood, Indiana University, Interlochen の夏期プログラムに参加。横浜インターナショナルスクール卒業後、2005年に米イェール大学に進学、哲学・政治学を二重専攻。在学中、チェリストAldo Parisot氏とのオーディションに合格し、Pierre Fournier氏の最若年の弟子であり、Janos Starker氏の助手も長年勤めたイェール音楽院のOle Akahoshi氏にチェロを師事する。

また、同音楽院のWendy Sharp氏に室内楽を師事する。2009年、同大学 FOMコンクールにて入賞。2012年冬、国際演奏家協会新人オーディションにてバッハ無伴奏ヴァイオリンパルティータ第2番の演奏で入賞した際、審査員の一人であるヴァイオリニスト川島成道氏から「曲の世界に入り込むことの出来る演奏」という賛辞を受ける。2017年にはNPO法人Emotion in Motion主催のもと、「Bach SOLO」無伴奏チェロリサイタルシリーズをみたとみらい小ホール(5月)、ティアラ江東(8月)、所沢ミュージズ(10月)、サントリーホール「ブルーローズ」(12月)にて開催。チェリストとして東京、鎌倉、長野などを中心に活躍中。鎌倉音楽クラブメンバー(同クラブ主催学生コンクール審査員)。ウェブサイト：<http://www.christophersgibson.com/>

# MESENA CITIZENS SYMPHONY ORCHESTRA CONCERT 9<sup>TH</sup>

## 村石 達哉 (指揮) *Muraishi Tatsuya (Conductor)*



5歳よりヴァイオリンを始め、武蔵野音楽大学、同大学院、ベルリン国立芸術大学を最優秀で卒業。金倉英男、ルイ・グレーラー、ヨゼフ・スーク、マリアンネ・ベッチャーのもとで学ぶ。18歳より読売交響楽団のエキストラ奏者として8年間室内楽奏法とオーケストラ奏法、また多くの偉大な指揮者と演奏を共にし、多くの事を学び渡欧。ベルリンでは学業のほかにボリス・ブラッヒャー・アンサンブルのソロ・ヴァイオリニストを務め現代曲の演奏法を学びその演奏はドイツの音楽雑誌に「感動的な演奏」と取り上げられた。SFBラジオ第2放送、ドイツ、イタリア、スウェーデンにおいてリサイタルを開いた後、95~96年にドイツのオーケストラ「エルプラント・フィルハーモニー」の首席コンサートマスターを務め、集客力がなかった楽団を再生し惜しまれながらも退任し、その後ソロ活動に移りヨーロッパを中心にオーケストラと共演、音楽祭出演、客演指揮を行い99年に帰国し現在に至る。バロック・ヴァイオリンの奏者としても研鑽を積み、中国ツアー、米国ツアーを行った。バロック音楽の視点からの作品の演奏解釈を行いアカデミックな表現法を試みる。またそれが認められ2013年にはインディアナ大学の招聘を受け演奏。2015年より毎年ベルリンでのリサイタルを再開し、またオーストリアのオツタールで夏に行なわれている音楽祭のマスタークラスの講師も毎年務めている。昨年よりウィーン、グラーツのマスタークラスのヴァイオリン講師も務める。メセナ市民交響楽団の常任指揮者。

## メセナ市民交響楽団



「音楽が大好きな者同士が“音を楽しみ、演奏を楽しみ、活動を楽しみ”ながら団員相互の『絆』を大切に行動の中で一人一人の資質を高め、その活動を通して地域文化の興隆・発展に寄与したい」との理念で2011年4月に発足しました。年齢も職業も違う者同士がそれぞれ多忙の中、時間を作り、楽しみながら練習に励み、メセナホールを拠点としてホールでの響きを大切にしたいと願っています。

当団では団員を募集しています!!

月に3回、木曜日から土曜日に練習しています。ご興味のある方、ぜひご連絡ください。団員一同、心よりお待ちしております。

■事務局 090-1128-8895 (屋ケ田)

■[ja-jp.facebook.com/MesenaCitizensSymphonyOrchestra/](https://www.facebook.com/MesenaCitizensSymphonyOrchestra/)